

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国 10年5月) ～コア CPI の下落率は 0.3 ポイントの縮小

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コア CPI の下落率は 0.3 ポイント縮小

総務省が 6 月 25 日に公表した消費者物価指数によると、5 月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI) は前年比▲1.2%となり、下落率は前月から 0.3 ポイント縮小した。事前の市場予想(ロイター集計: ▲1.3%、当社予想は▲1.2%)を上回る結果であった。

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合は前年比▲1.6%(4月:同▲1.6%)、総合は前年比▲0.9%(4月:同▲1.2%)となった。

消費者物価指数の推移

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合
09年 1月	0.0	0.0	▲0.2	0.5	0.5	▲0.3
2月	▲0.1	0.0	▲0.1	0.5	0.6	▲0.1
3月	▲0.3	▲0.1	▲0.3	0.2	0.4	▲0.4
4月	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲0.1	0.0	▲0.6
5月	▲1.1	▲1.1	▲0.5	▲0.8	▲0.7	▲0.9
6月	▲1.8	▲1.7	▲0.7	▲1.5	▲1.3	▲1.0
7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲1.8	▲1.7	▲1.1
8月	▲2.2	▲2.4	▲0.9	▲1.7	▲1.9	▲1.1
9月	▲2.2	▲2.3	▲1.0	▲2.1	▲2.1	▲1.4
10月	▲2.5	▲2.2	▲1.1	▲2.4	▲2.2	▲1.4
11月	▲1.9	▲1.7	▲1.0	▲2.2	▲1.9	▲1.3
12月	▲1.7	▲1.3	▲1.2	▲2.2	▲1.9	▲1.5
10年 1月	▲1.3	▲1.3	▲1.2	▲2.1	▲2.0	▲1.4
2月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.8	▲1.8	▲1.3
3月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.7	▲1.8	▲1.2
4月	▲1.2	▲1.5	▲1.6	▲1.5	▲1.9	▲1.4
5月	▲0.9	▲1.2	▲1.6	▲1.4	▲1.5	▲1.4
6月	-	-	-	▲0.9	▲1.3	▲1.4

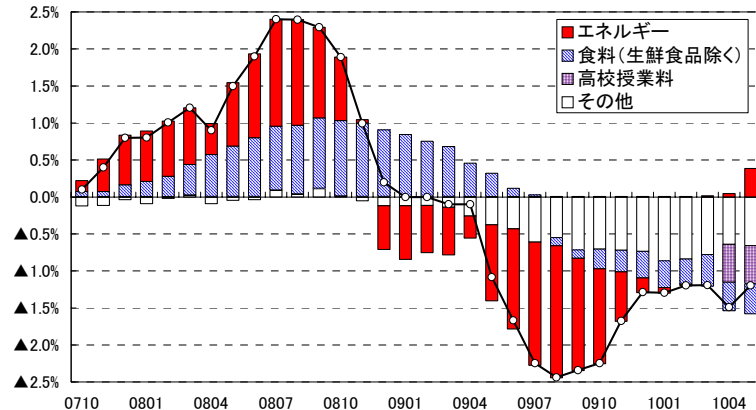
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳を見ると、電気代(4月:前年比▲9.4%→5月:同▲3.8%)、ガス代(4月:前年比▲5.4%→5月:同▲2.8%)の下落幅が縮小し、ガソリン(4月:前年比17.0%→5月:同19.0%)、灯油(4月:前年比19.2%→5月:同25.6%)の上昇幅が拡大したため、エネルギー全体の上昇率が4月の前年比0.6%から同4.8%へと高まった。

食料品(生鮮食品を除く)は前年比▲1.7%(4月:同▲1.6%)と10ヵ月連続で下落し、下落幅は前月よりも若干拡大した。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.38%(4月は0.05%)、食料品(生鮮食品を除く)が▲0.41%(4月は▲0.38%)、高校授業料が▲0.51%(無償化以外の要因も含む)、その他が▲0.66%(4月は▲0.64%)であった。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解



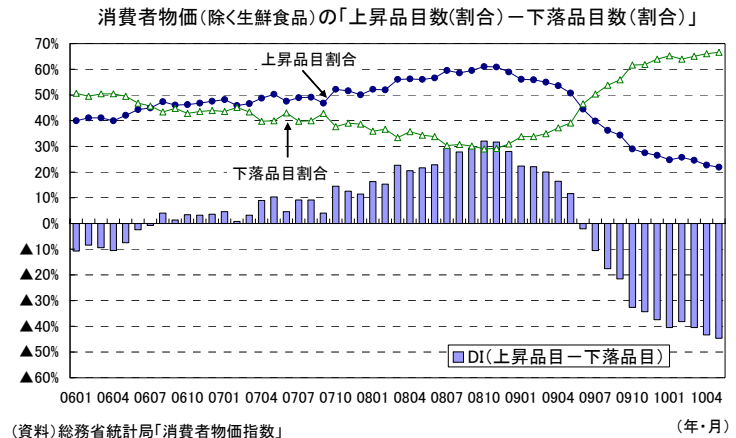
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

(年・月)

## 2. 物価下落品目数は3ヵ月連続で増加

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、5 月の上昇品目数は 115 品目（4 月は 119 品目）、下落品目数は 349 品目（4 月は 346 品目）となった。上昇品目数の割合は 21.9%（4 月は 22.7%）、下落品目数の割合は 66.6%（4 月は 66.0%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲44.7%となり、前月の▲43.3%からマイナス幅が拡大した。

下落品目数は 2 月に 1 年 4 ヵ月ぶりに減少したが、3 月からは 3 ヵ月連続で増加した。景気が比較的早いペースで回復してきたため、需給バランスは改善に向かっていているものの、物価下落圧力は依然根強いものがある。



## 3. 当面前年比▲1%程度の下落が続く公算

6 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲1.3%となり、下落率は前月から 0.2 ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：▲1.4%、当社予想も▲1.4%）を上回る結果であった。

ガソリン（5 月：前年比 18.3%→6 月：同 12.4%）、灯油（5 月：前年比 14.3%→6 月：同 14.9%）が前年比で二桁の上昇を続けるなか、電気代（5 月：前年比▲2.8%→6 月：同▲0.1%）、ガス代（5 月：前年比▲7.4%→6 月：同▲4.1%）の下落幅が縮小したため、エネルギーが前年比 0.7%（5 月は同▲1.0%）と 14 ヵ月ぶりに上昇に転じた。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲1.7%（5 月：同▲1.9%）と 13 ヵ月連続で下落したが、下落幅は前月よりも若干縮小した。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.04%（5 月は▲0.06%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.36%（5 月は▲0.43%）、高校授業料が▲0.37%、その他が▲0.60%（5 月は▲0.64%）であった。

5 月の全国、6 月の東京都区部ともにコア CPI の下落率は縮小したが、いずれもエネルギー価格の上昇によるもので、「食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合」（いわゆるコアコア部分）の下落率は前月と変わらなかった。電気代、ガス代は輸入価格上昇の影響が遅れて反映されるため、夏場にかけて前年比でプラスに転じることが見込まれるが、ガソリン価格の前年比上昇率はすでに縮小に向かっている。基調的な物価の動きに大きな変化が見られないため、全国のコア CPI は前年比▲1%程度の下落がしばらく続く可能性が高い。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。